

大阪府森林組合通信

2026.6 Vol.50

カマツカ
(撮影地：高槻市原地内)

ウナギの森植樹祭の開催



今年で第13回を数えるウナギの森植樹祭が、令和8年5月10日に高槻森林観光センターで開催されました。

この植樹祭は、森と海は川でつながっており、森の生態系を豊かにすることで、かつて淀川に生息していたウナギを呼び戻そうと、高槻市内の森林でヤマザクラやイロハモミジなどを植樹する活動を続けていただいています。



ウナギの森植樹祭開会式

今回は本年11月14日から15日に岸和田市・泉佐野市を会場に「第45回全国豊かな海づくり大会～魚庭(なになわ)の海大阪大会」が開催予定であり、そのプレイベントとしても位置付けられています。



みんなで植樹作業

当日は200名を超える参加者が各々、苗木を植え付け、獣害から苗木を守るサブリガードを設置して完了。

この苗木が大きくなり、森林だけでなく、川や海の生物多様性を豊かにすることを切に願っています。

大阪府森林組合
代表理事組合長 栗本 修滋



ご挨拶

組合員の皆様におかれましては、ご清祥のことと存じます。このご挨拶を書いている5月上旬は、ウクライナやイランが戦場になっています。戦禍によって兵士だけでなく、多くの国民の命と財産が奪われています。ニュースを見聞きするたびに心が痛みます。一日も早く、平和が訪れることを願ってやみません。

戦禍は遠く離れた私たちにもおよび、森林作業の現場でも軽油の高騰は組合経営にも影響を与えようですが、耐えようと思えます。昨年は国際協同年でした。過度に競争することなく、経済の恩恵を隅々まで行き渡らせるには協同組合の経営体最もふさわしいと世界が認めた証とされています。奪い合いの経済ではなく、私たちの協同組合は誰も取り残さない経済を目指していることを忘れないようにしたいと思っています。

初夏は植物の芽生えと開花の季節です。風倒木で明るくなった山ではイバラが白や黄色の花を咲かせています。見たい目はきれいですが、森林作業の現場では厄介極まりないです。暑い現場で命綱に近いファン付き作業服をイバラの棘が傷つけ、ファンの効果がなくなり、また、イバラの茂みにスズメバチの巣があります。これからの林業経営は間伐から小規模皆伐へと少しずつ転換すると思います。間伐対象にならない樹齢の森林が増えたことなどから、組合では皆伐、植栽、保育の一連の作業に行政の支援を要請しながら、森林経営計画も変更すべきところは変更したいと思えます。組合は風倒木の現場で皆伐、植栽、保育の作業を経験していますので、林業経営の転換にも対処できることをご報告し、ご挨拶とさせていただきます。

この林業経営は間伐から小規模皆伐へと少しずつ転換すると思います。間伐対象にならない樹齢の森林が増えたことなどから、組合では皆伐、植栽、保育の一連の作業に行政の支援を要請しながら、森林経営計画も変更すべきところは変更したいと思えます。組合は風倒木の現場で皆伐、植栽、保育の作業を経験していますので、林業経営の転換にも対処できることをご報告し、ご挨拶とさせていただきます。

この林業経営は間伐から小規模皆伐へと少しずつ転換すると思います。間伐対象にならない樹齢の森林が増えたことなどから、組合では皆伐、植栽、保育の一連の作業に行政の支援を要請しながら、森林経営計画も変更すべきところは変更したいと思えます。組合は風倒木の現場で皆伐、植栽、保育の作業を経験していますので、林業経営の転換にも対処できることをご報告し、ご挨拶とさせていただきます。

Contents

ご挨拶	1	木根館 ラ・フォレスタ イベント情報	5
ウナギの森植樹祭の開催	1	株式会社明治大阪工場の皆様と歩んだ17年	5
大阪府 森づくり推進アクションプランを策定しました	2	組合の新しいメンバー紹介	6
スギ花粉発生源対策 実証業務の実施について	3	お仕事体験講座の開催	6
職員研修レポート 銘建工業株式会社の視察	4		

大阪府 森づくり推進アクションプランを策定しました（令和8年3月）

大阪府環境農林水産部みどり推進室

大阪府の森林は都市部に近接しており、ひとたび山地災害が発生すると府民の生命・財産に被害を及ぼす恐れが高いことから、これまで治山事業や森林整備事業、大阪府森林環境税を活用した防災・減災対策を緊急かつ集中的に実施してきたところです。

今後も、府域の森林を将来にわたって、健全に整備・保全し、水源涵養や土砂流出防止等の森林の多面的機能を発揮していけるよう、こういった取組みを、どこで、いつまでに、どれくらい進めて行くのかといった府の取組みの全体像を示すものとして、今回、新しく、「大阪府 森づくり推進アクションプラン」（以下、プラン）を策定しましたので、その内容を簡単に紹介させていただきます。

プランは全部で7章の構成となっています。

第1章は「大阪府 森づくり推進アクションプランの考え方」として、プランの対象や、示そうとすること、位置付け等を記載しています。

第2章は「森林の機能と森林が担う役割」について記載しています。公益的機能をもたらす森林と経済活動の場としての森林の2つの側面から、府域の森林が担う役割について説明しています。

第3章は「大阪府の森林・林業を取り巻く状況」として、これまでの山地災害対策や森林経営の歴史、近年の課題とこれから取り組むべき事項をまとめるとともに、多様な森づくりについて記載しています。

第4章は森林の長期的な整備・保全に関連する社会情勢の変化や今後、取り組むべき事項を踏まえ、取組みの柱を「4つの基軸」、重点的に取り組む事項を「主要施策」としてまとめています。例えば、基軸1の「森林防災・減災力の維持・強化」では、治山対策の推進、治山施設の長寿命化・機能強化、流域治水対策の推進という3つの主要施策を掲げています。その他、基軸2で「持続的な森林経営の推進」、基軸3で「多様性の高い森林の維持・増進」、そしてこれら3つの基軸を支えるものとして、基軸4「森林の維持保全のための体制づくり」を掲げ、これらの基軸の実現に向けた各種施策を示しています。

第5章は「取組みの展開方法」について記載しています。第4章で掲げた各基軸・施策を効率的に進めていくことを目的に、めざすべき森林の将来像と重視する取組内容を地図上で割り振る「ゾーニング」を行い、府の各施策の実施優先度等を森林の整備・保全に関わるあらゆる主体に対して示しています。

ゾーニングは、府域の森林を対象に、将来の望ましい森林の姿と、それを実現するための技術的な手法等を示す「大阪府森林整備指針」をベースに作成しています。この指針では府域の森林を大きく4つ、①資源循環林（スギ・ヒノキ人工林で林業経営が成り立ちやすい場所）、②広葉樹林への誘導・転換（スギ・ヒノキ人工林で林業経営が成り立ちにくい場所）、③資源管理林（広葉樹林・竹林・マツ林で林業経営が成り立ちやすい場所）、④自然遷移林（広葉樹林・竹林・マツ林で林業経営が成り立ちにくい場所）に区分しました。この4つの区分に対してプランでは、各基軸・施策の優先度や個別施策の展開方向等の決定に重要となる山地災害危険地区の危険度を割り振り、府域の森林を11種類のゾーンに整理しています。

第6章はプランの目標達成に向けた成果指標を定めています。令和17年度までの計画期間で達成すべき到達点を「中期指標」として定めるとともに、策定時から20年後となる令和27年度までのめざすべき到達点を「長期指標」として設定しています。

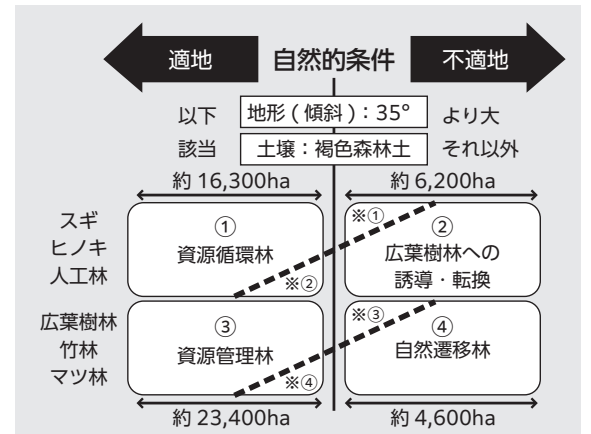
第7章はプランの進捗管理を示しています。

プランの詳細については、大阪府のホームページに掲載しています。右下のQRを読み取って頂くと、該当のページにアクセスできますので、是非ご確認頂ければと思います。

プランは、今後の大阪府における森林・林業施策の全体像として、重要なものとなります。

なかでも、プランの展開方法として新たに示す11種類のゾーニングでは、森林所有者のみなさまの森林経営意向を踏まえ、定期的に見直しを行っていくこととしており、その見直しには、森林境界の明確化や森林経営の意向確認等が重要です。

将来の大阪の森林の整備・保全を着実に推進する



※社会的条件の適用により、自然的条件を超えて区分される場合がある
注：記載の面積は自然的条件をあてはめた場合の試算値であり、衛星画像から立木地と判別された数値である。無立木地等を含めた地域森林計画対象民有林の面積とは一致しない。

次に指針の4つの目標に向けて、上記の4区分の管理の方向性とともに全体に共通する配慮事項を定めました。また4区分に関わらず、特に対応が必要な森林もあります。

4区分の管理の方向性

- ① 資源循環林**
林業適地にあるスギ・ヒノキ人工林は「資源循環林」として人工林の林業経営を通じて、維持管理を行う。
- ② 広葉樹林への誘導・転換**
林業不適地にあるスギ・ヒノキ人工林は「広葉樹林への誘導・転換」を図ることで、維持管理費用を縮減し、災害に強い森林として維持する。
- ③ 資源管理林**
健全な広葉樹林を維持しつつ、林業適地にある広葉樹林・竹林等は、森林資源を有効活用する仕組みを検討し、資源活用を通じた森林管理を進める。
- ④ 自然遷移林**
林業不適地にある広葉樹林・竹林等は、特に手入れを要しない「自然遷移林」とするが、災害が懸念される場所では、必要に応じて公的な対策を実施する。

大阪府森林整備指針（抜粋）

ため、市町村や森林所有者のみなさまと連携して取り組んで参りますので、今後とも、大阪府の林務行政について、ご理解、ご協力の程よろしくお願ひします。

「4つの基軸」と「主要施策」・目標達成に向けた「成果指標」

大阪府森づくりアクションプラン HP



計画期間等の設定

- 計画期間：R8～R17（10年間）
- 指標設定：中期：10年・長期：20年
- 計画見直し：5年ごと

成果指標（中期・長期）の考え方

- 中期：策定後10年間で達成すべき目標値（計画期間における取組みの進捗を評価する指標）
- 長期：策定後20年間で目指すべき目標値（計画期初の取組みの進捗を踏まえた将来指標）

基軸1 森林防災・減災力の維持・強化

- 1-1 治山対策の推進
- 1-2 治山施設の長寿命化・機能強化
- 1-3 流域治水対策の推進

- 1** 山地災害危険地区 A ランクの対策完了箇所数 (R8以降) 中期 90箇所→長期 282箇所
- 2** 森林における流域治水対策の取組流域数 期初 23流域→中期 45流域→長期 66流域



基軸2 持続的な森林経営の推進

- 2-1 森林経営の効率化・基盤強化
- 2-2 新技術の活用支援
- 2-3 森林資源の有効活用

- 1** 森林経営が行われている区域の割合 期初 4割→中期 6割→長期 10割
- 2** 大阪府内産材の年間利用量 期初 2,500m³→中期 10,000m³→長期 20,000m³



基軸3 多様性の高い森林の維持・増進

- 施策3-1 広葉樹林への誘導・転換
- 施策3-2 多様な主体による森づくり

- 1** 複層林化・広葉樹林化面積 ※R1以降実績 期初 226ha→中期 800ha→長期 1,800ha
- 2** 民間企業等との森づくり活動箇所数 期初 41ヶ所→中期 50ヶ所→長期 50ヶ所(/年)



基軸4 森林の維持・保全のための体制づくり

- 4-1 労働力の確保・人材育成
- 4-2 森林災害に対するレジリエンスの向上
- 4-3 府民への見える化

- 1** 林業就業者数 期初 69人→中期 70人→長期 70人
- 2** 府民への広報・啓発活動 (計画期間累計) 中期 300件→長期 600件





スギ花粉発生源対策 実証業務の実施について

大阪府では、府域における「新しい林業経営モデル」の構築・普及を図ることで、森林整備に関する施策を推進するとともに、林業事業体の技術力向上及び人材育成を図り、そのことによりスギ人工林の伐採、植替え(皆伐・再造林)によるスギ花粉発生源対策を推進することを目的に、森林経営計画地における実証事業の提案の募集がありました。

組合からは府内3地区(豊能町高山、千早赤阪村東阪、和泉市父鬼町)を対象に事業提案し、全て採用され、実証事業を実施しました。

この事業については、本年3月のくみあい通信特別号で取り組みの記事を掲載しましたが、事業が完了し、その結果から導かれた課題なども見えてきたことから、改めて取り上げるものです。

事業全体としての取り組み

事業要件が様々に設定されているのですが、その中の一つに「新技術(ICT技術)を導入すること」があったので、実施に際して対象森林状況を詳しく把握することは重要と考え、成立本数、平均

胸高直径・平均樹高・蓄積量などをLidarSLAM(レーザーで周囲を測りながら自分の位置と地図を同時に作る。衛星からの電波が届きにくいところでも効率的に測量が可能)技術による地上レーザー計測を共同事業者へ依頼し、現場での従来手法による情報収集結果と併せて、実績との精度結果について検証しました。

一部ですが、計測結果と実績について次のとおりご紹介します。

地上レーザー計測			搬出実績
地区名	面積	蓄積量	材積
高山地区	1.02ha	980m ³	903m ³
東阪地区	0.98ha	478m ³	459m ³
父鬼地区	1.07ha	677m ³	659m ³

※3地区共に材積の誤差が1割以内となり、検証結果として精度が高いことが証明されました。



地上レーザー計測の実施状況(右)と使用機械(Lixel L2Pro)



集・造材及び植栽の状況(豊能町高山地区)



続いて、各地区の取組について主に課題点をご紹介させていただきます。

豊能町高山地区

■内容■

集材方法は車両系で既存作業道を利用しプロセッサ・グラップルなどの林業機械を使用し実証事業を実施しました。

■課題■

集・造材実施箇所が限定され、伐倒木が重なり合うなど一日当たりの作業量が減少しました。

■対策■

既存作業道のみではなく、新たな森林作業道を開設するなどして、集・造材場所を分散させる検討が必要です。

きます。



ラジキヤリー(自走式搬器)による集材状況(千早赤阪村東阪地区)



千早赤阪村東阪地区

■内容■

集材方法は架線系でラジキヤリーと呼ばれる自走式搬器にて実証事業を実施しました。

■課題■

単機使用としたことで、線張・撤収に多くの時間を要したことや、燃料の給油等、架線の上げ下げが出来ず調整に苦労しました。また、重量の問題で大径木の集材が困難であったことや、走行速度が想定よりも遅く、当初計画よりも搬出に日数を要する結果となりました。

■対策■

ラジキヤリーはタワーヤードなどと複合使用の検討と、速度が遅いの



集・造材及び植栽の状況(和泉市父鬼地区)



で他の架線集材方法も検証します。

和泉市父鬼地区

■内容■

集・材方法は車両系で森林作業道を開設し、グラップルなどの林業機械にて実証事業を実施しました。

■課題■

森林作業道が単線であるため、小運搬機械に積み込むまでにグラップルからグラップルへバケツリレーのような作業が発生しました。

■対策■

現場に応じた適切な作業期間を確保し、重機能力を最大限発揮できる工程を確保します。

全体的な課題としては、枝葉が大量に発生するため、地拵えに時間を要することや、集・造材箇所が限定されると枝葉が大量の山となってしまうことで残置できない状況になり、林外搬出が必要となる現場もありました。車両系での搬出の場合は、将来的に使用しない路線上へ集積するのが有効であり今後は検討したいと思えます。

また、主に小花粉スギのコンテナ苗を植栽しましたが、コンテナ苗は植栽手間が裸苗より軽減されますが、苗木の生産量が限られるため事前確保が必要な事や、苗木単価が裸苗の倍以上かかるためコスト高になるなどの課題も見つかりました。

最後に、持続的な林業経営を実現するために、皆伐・再造林は今後必要になってくると考えております。実証事業については今回を含めて3年計画であることから、積極的に参加し、更なる実績を通じて、組合員の皆様に還元できるよう努めてまいります。



職員研修レポート

銘建工業株式会社の視察

当組合では職員の森林・林業に関わる幅広い知識の醸成と支店間職員の懇親などを兼ねて、中国・山陰地方を訪れる職員研修を令和8年4月16日から17日に実施しました。

同地方の多々ある研修先の中から、岡山県真庭市の「銘建工業株式会社(以下「銘建工業」といいます。)」様と鳥取県江府町の「サントリー天然水の森 奥大山ブナの森工場」様を研修先に選定し、先端の木材加工とともに清らかな天然水がどのように育まれているかを学びました。

今回は、その中で銘建工業の主力商品である集成材の製造現場をレポートします。

銘建工業とは

銘建工業は、大正12年に製材業として創業、昭和45年に一般住宅向け構造材集成材の製造を開始、昭和60年には大断面集成材(断面の短辺が15cm以上かつ大面積300㎡以上の構造用集成材)の製造を開始しました。その後、平成24年にCLT(Cross Laminated Timber)の略で、木の板を層ごとに直交す

るように積層接着したパネル)の製造ラインを本社工場内に設置、平成28年には日本発の量産型工場を稼働させた、構造用集成材分野でのトップメーカーであり、常に業界をけん引されています。

今回、真庭市内の大断面集成材工場とCLT工場の2ヶ所の工場の見学をさせていただきました。

集成材はラミナと呼ばれる、含水率を15%に落とした厚さ数センチ程度の細長い板状の木材を層状に積層して接着します。ただし銘建工業では、ラミナの製材は自社では行わず、各地域の協力工場から製材・乾燥された部材を受け入れ、集成材の製造に特化しています。



集成材の原材料「ラミナ」

部材の主な樹種は、国産材ではスギ・ヒノキ・マツが使用されており、産地の指定がない場合は九州・四国地方などから納入される部材を使用しておりますが、産地指定された集成材を扱うケースも増加しており、部材の確保には苦労することも多く、各地域の森林組合をはじめとする原木供給事業者との協力関係の構築も必要となっております。

また指定産材と国産材、スギ

大阪府森林組合と銘建工業の関係について

当組合と銘建工業は、同社に大阪府内産のラミナを納入し、集成材などに加工された部材が、こども未来館(高槻市)やまちなかりビル(吹田市)の建築に活用されるなど、以前から協力関係を構築してまいりました。

とヒノキといった素材を配合させるなど、ニーズにより多様な製造手法があるとのこと。



こども未来館 (高槻市)



まちなかりビル北千里 (吹田市)

大断面集成材について

大断面集成材は体育館や学校・公共施設などの大型木造建築に求められる強度と耐火性を備えた集成材です。



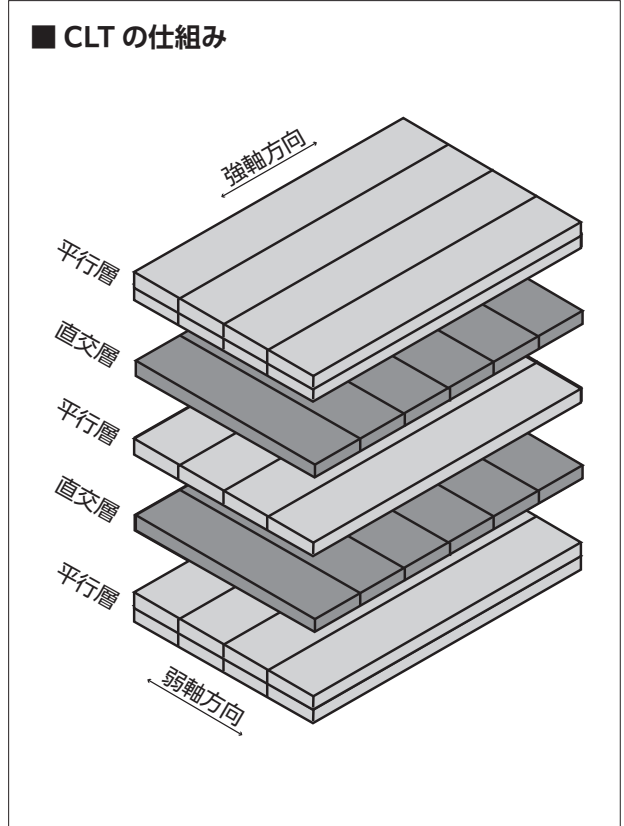
大断面集成材

工場では通常の柱状の集成材だけでなく、特殊な形状の湾曲材の製造も対応可能とのことですが、建物に合わせた特注サイズの製造が大半であることから、工場内はラインの流れ作業ではなく、手作業による製造工程でした。

一般戸建て住宅の集成材とは異なり、大断面集成材は、より強度が増す黒色の接着材が使われており、圧力をかけながらエア・インパクトレンチなどを用いて保温しながら8時間以上圧縮します。

CLTについて

CLTは、1990年代からヨーロッパを中心にマンションや商業施設の建築で使用されてきました。パネル工法で施工性が優れ、鉄やコンクリートと比べ重量は約20%と非常に軽く、建物基礎工事や輸送のコストの低減することができます。銘建



工業は2016年からCLT量産工場が稼働し、現在、国内で53%という業界トップシェアを誇り、最大短辺3・0m×長辺12・0m×厚270mmまでのCLT大判パネルの製造が可能となっています。

CLTの約30%以上が出荷されました。

万博会場全体では、リング以外にも様々なパビリオンで、CLTと集成材を合計した約1万9千㎡以上が銘建工業から出荷され、使用されてまいりました。



大阪・関西万博のリング

大阪万博 リングについて

昨年、開催された大阪・関西万博のシンボルであった世界最大の木造建築物リングの柱・梁などに大断面集成材が、床部材はCLTが使用されており、銘建工業から大断面集成材の約60%以上、

木材のカスケード利用

製造過程で出る端材や木くずは、隣接するバイオマス発電所で燃料として活用され、発電された電気は再び工場で使用される循環システムも構築されています。

今後当組合は府内産木材の付加価値を高め、幅広い用途への活用に向け、銘建工業をはじめ様々な技術を持つ木材加工業者と協力関係を深めることで、公共・民間の如何を問わず木材利用に取り組みたいと考えています。

今回の研修の視察に際し、銘建工業株式会社様及び「サントリー天然水の森 奥大山ブナの森工場」様には、懇切丁寧なご説明と対応をいただきました。

厚くお礼申し上げます。

季節は初夏。入梅までのこの季節は1年の中でも過ごしやすいはずなのですが、初夏を通り越して盛夏を思わせるような気候の日が続いています。

その後は子どもたちが待ち遠しい夏休みです。アウトドアで思いっきり遊んでほしいですが、日中は熱中症も心配。そんなときは木根館の木工房

トで1日を過ごしてみるのもいいかも。クラフトを楽しみながら、夏休みの作業も完成。ぜひ木根館に来てみてください。

■今夏のイベントスケジュール

施設名	イベント名	内容	開催日	申込
ラ・フォレスタ	上田英二 うつわ展	和歌山県桃山町で陶のうつわを制作する上田英二さんの作品展	5月29日(金)～6月28日(日) (最終日は15時まで)	観覧無料
木根館	季節のワンコイン「丸太を切って自由に作ろう」	丸太の輪切りと自然素材と組み合わせで自分だけの作品をつくってみよう	7月8日(水)～9:00～16:00	先着100個 参加費500円
木根館	奥河内ワークショップ「角ちゃぶ台を作ろう」	おおさか河内材のスギで、コンパクトで持ち運びしやすい角ちゃぶ台を作ってみよう	7月26日(日) 9:30～12:30	6/6申込開始 先着12名 参加費7,700円
木根館	木根館「オリジナル貯金箱を作ろう」	定番の動物貯金箱のプレート部を好きな形にカットしたりイラストを描いたりオリジナル作品を作ってみよう	8月1日(土)～8月30日(日) 9:00～16:00	随時受付 参加費1,280円
ラ・フォレスタ	林靖介と木工教室展	木工作家の林靖介さんと木工教室受講生の作品展示会 木工教室に興味のある方はぜひ	9月4日(金)～10月2日(金)	観覧無料

Facebook / ホームページをご覧ください

木根館 ラ・フォレスタ イベント情報

●木根館 ☎0721-64-8151
ホームページ▶
<http://www.sinrin.org/kinkonkan>


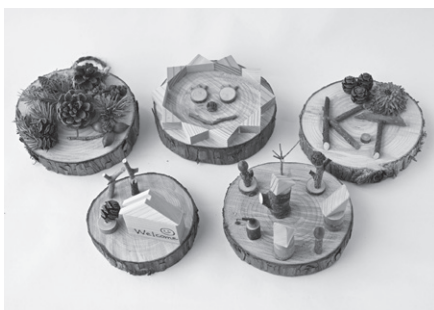
●ラ・フォレスタ ☎0721-72-0090
ホームページ▶
<http://www.sinrin.org/foresta/>

LINE公式アカウントに登録を

友達登録いただくと「木工体験100円引きクーポン」をプレゼント中。その他イベント情報などをお届けしています。

登録方法① QRコードを読み取り「kinkonkan-木根館」を追加して登録

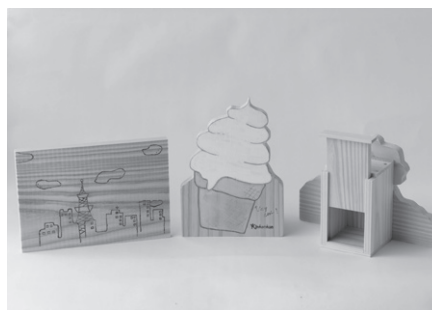
登録方法② ID検索で「@506ykozqj」を入力して登録

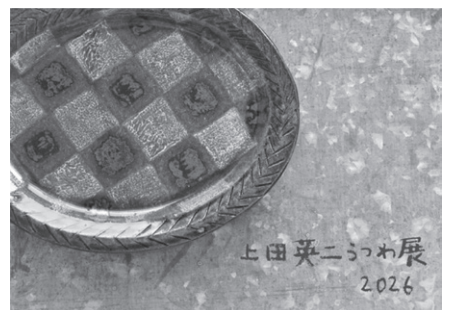
季節のワンコイン



角ちゃぶ台



オリジナル貯金箱



上田英二 うつわ展



のこぎりで竹の伐採

アドプトフォレスト活動とは、大阪府が事業者と森林所有者の仲介役となり、企業や団体が森づくりに参画できる制度です。大阪府森林組合では、大阪府北部を中心に、大阪府および各市町村と連携し、活動場所の選定、森林所有者の紹介、作業の安全管理、技術指導などを担い、一部企業の森林整備を支援しています。

株式会社明治大阪工場様には、平成21年から高槻市原城山地区の荒廃した竹林の整備に継続して取り組んでいただきました。活動地の選定にあたっては、「明治」とい

明治大阪工場とアドプトフォレスト活動



株式会社明治大阪工場の皆様と歩んだ17年
森づくりへの感謝を込めて



バウムクーヘン作り対決

活動地である原城山地区は、市内屈指の名勝地である摂津峡のほど近くに位置する自然豊かな地域です。一方で、集落周辺では放置竹林の拡大による景観悪化や獣害といった課題も抱えており、複数の企業が区域を分担しながら竹林整備に取り組んでいます。

竹林は手入れを怠ると竹が過密となり、地表に光が届かず、災害に弱い環境へと変化してしまいます。そこで、アドプトフォレスト制度を活用し、毎年2回程度「竹の間伐」や「タケノコ掘り」を実施いただくことで、竹の本数を適切に調整し、鬱蒼とした竹藪を光が差し込む健全な竹林へと再生していただいています。

これらの取り組みは、地域の森林環境の改善に大きく寄与するとともに、森林所有者にとっても大きな励みとなりました。

また、参加企業同士の交流の場

竹林整備への取り組み

ばチヨコレート、その中でも広く親しまれている「たけのこの里」を製造されている大阪工場が高槻市にあるというご縁もあり、同市の竹林に白羽の矢が立ちました。



活動地での記念撮影

これらを取り組みは、地域の森林環境の改善に大きく寄与するとともに、森林所有者にとっても大きな励みとなりました。

また、参加企業同士の交流の場

17年間への感謝

令和8年3月28日(土)、20名の皆様にご参加いただき、晴天のもと竹林整備を行いました。タケノコも顔を出し始めており、作業後にはタケノコ掘りも楽しんでいただきました。

残念ながら、17年間続けてこられた明治様の活動は今回が最終回となりました。長年のご尽力に感謝の意をお伝えすべく、三島支店支店長より工場長様へ、ヒノキの特製感謝状をサプライズで贈呈いたしました。すると、明治様からも段ボールいっぱいのお菓子セットをご提供いただき、温かい交流のひとつとなりました。

17年間という長きにわたり、地域の森林環境保全に多大なるご貢献を賜りましたことに、心より敬意を表し、深く感謝申し上げます。

組合の新しいメンバー紹介

令和7年度、新たなメンバー4名が組合に加わりました。

年齢も経歴もバラエティに富んだ4名で、三島支店に2名、南河内支店と南河内樹木リサイクルセンターに各1名ずつを配置しましたが、各事業所で取り扱う事業に対しての情熱は皆さん同じです。

今回の4名は全国森林組合連合会より当組合が受託し実施する林業就業支援事業の修了生ばかり。当組合も様々なチャンネルで求人活動を行っているものの、採用にまでなかなか至らない中で、この事業でのマッチングが労働力の確保に大きな役割を果たしています。

令和8年度も春季と秋季の2回実施することを計画しており、将来の大阪府内の森林を担ってもらえる人材との新たな出会いに大きな期待を寄せています。



植野 陽平さん (三島支店)



山口 仁さん (南河内樹木リサイクルセンター)



下村 晃太郎さん (三島支店)



川畑 耕一さん (南河内支店)

お仕事体験講座の開催

令和8年2月6日(金)、大阪府協同組合・非営利協同セクター連絡協議会(通称、OCoNoMiおおさか)主催による「お仕事体験講座」が開催され、当組合には大学生3名に参加いただきました。

本講座は、大学生に協同組合や非営利協同セクターについて理解を深めてもらうとともに、それぞれが地域社会において果たす役割や実際の業務内容について知る機会を提供することを目的として実施されたものです。

オリエンテーション

午前10時より豊能支店にてオリエンテーションを行いました。当組合が取り扱う事業の説明とともに、森林は木材生産だけでなく、水源の涵養や土砂災害の防止など多面的な役割を担っていることを伝え、森林の重要性について理解を深めてもらいました。

その他

最後に、高槻森林観光センターを見学し、森林は保全だけでなく、観光や地域振興といった多様な形で活用されていることや、森林整備事業の流れについて説明を行いました。その後の質疑応答では多くの質問が寄せられ、関心の高さがうかがえました。

森林整備現場①(能勢町 クヌギ・クリ造林地)

オリエンテーション終了後、能勢町のクヌギ・クリ造林地へ移動し、森林整備現場を見学しました。

現地では、単木ネットに包まれた苗木が無数に植えられている光景に驚いた様子で、スマートフォンで何枚も写真を撮影するなど、普段目にするののない現場に強い関心を示していました。

■今後の展望

参加した学生の方から、「最初は森林組合のイメージが湧いていなかったが、今回の体験を通じて具体的に知ることができた」といった感想も聞かれ、本講座が森林・林業への理解を深める一助となったことがうかがえます。

今回は現場の見学に留まりましたが、さらに理解を深めるためには、今回は簡易な作業体験をプログラムに盛り込むことなども必要と考えており、今後の課題として位置付けています。

当組合では、今後もこのような取組を継続し、森林・林業の魅力を広く発信するとともに、将来の担い手の確保・育成につなげてまいります。また、若い世代との交流を通じて、新たな視点や気づきを得る機会としても、本講座を積極的に活用していきたいと考えています。



大阪の森林で非日常体験

森林整備現場②(豊能町 スギ花粉対策実証事業地)

その後、豊能町のスギ花粉対策実証事業地を見学し、居合わせた同年代の森林作業員に対して積極的に質問する場面もあり、現場での仕事について理解を深めている様子がうかがえました。

また、伐倒の瞬間を初めて目にした学生からは、大きな音や地響き、整然と並べられた丸太の量にも圧倒されている様子が印象的でした。



森林・林業の現場を見学



丸大食品

心に残る贈り物

丸大のギフトは、どなたにも喜ばれます

大阪府森林組合の皆様には特別価格でご案内申し上げます。同封のチラシをご覧ください。

丸大食品株式会社 中日本特販営業課
〒557-0063 大阪市西成区南津守2-1-10
TEL 06(6657)0071 FAX 06(6657)1090